

「月山」は「がっさん」あるいは「つきやま」と発音する、「月山神社」は全国に数多あろうが、関係するものを何点か取り上げる。

1. 吾が山形県内

宗教法人で神社本庁が包括する神社について「山形県神社誌」（山形県神社庁発刊／平成12年4月1日発行）に基づき、図(表)－1のとおりの集計を見た。「月山神社」と称するものは、出羽三山関係社36社中13社で36.1%の割合である、ほぼ三分の一ということになる。それも、月山の東南エリアに対応する村山地域に多いことが分かる。古来、残雪豊富な「大雪城」を熱く崇敬した心（信仰）が読み取れる。なお、米沢・置賜には濃い羽黒山崇敬が窺われる。

山形県神社誌掲載の出羽三山関係社内訳

	総数	出羽神社	羽黒山神社	月山神社	湯殿山神社	計
山形支部	160		0	3	1	4
東村山支部	68		3	4		7
西村山支部	99		2	4	2	8
北村山支部	129		2	0	0	2
新庄最上支部	185		0	0	0	0
米沢支部	72		5	0	0	5
南陽東置賜支部	102		3	0	0	3
長井西置賜支部	81		2	0	0	2
東田川支部	321	2	0	1	1	4
鶴岡西田川支部	188		0	1	0	1
酒田飽海支部	318		0	0	0	0
総計	1,723	2	17	13	4	36
総計中の割合	100.0%	0.1%	1.0%	0.8%	0.2%	2.1%
出羽三山中の割合	---	5.6%	47.2%	36.1%	11.1%	100.0%
図(表)－1						

2. 「貞治七年阿弥陀板碑」

建屋のある神社ではないが、石碑の建立過程を踏まえば神社と同相同格である。**西暦1368年建立**の板碑のこと。山形県「山形の宝」データベースより「貞治七年阿弥陀板碑」を図(表)－2に取り上げる。西方極楽浄土の教主、阿弥陀如来を中尊とし、その左脇侍に観世音菩薩を、右脇侍に勢至菩薩を従えた、阿弥陀三尊像の種子形式のものである。古は、里の行人結集においては月山を目指したのである。山形側から見れば、地の利として、寒河江→白岩→西川に入り、岩根沢口・あるいは本道寺口から御山に入っただろうから、この当時は第一義的には湯殿山ではなく月山崇拝だったのであ

る。 2023(R5)年 12 月 19 日（火）現物を見ているが、種子（梵字）は劣化が進行している感じを持った。なお、「貞治七季戊申三月日」の年号はきちんと読み取れる。



山形市山家町の通称「糠塚」という細長い土壇状の塚（高さ約 3 m 程度）の上に立っている、南北朝期の北朝年号貞治 7 年（西暦 1368 年）の年号が刻まれている板碑。高さ 1.3m、上部幅 44 cm、下部幅 42 cm、厚さ 30 cm の柱状である。正面上部に直径 37 cm の円い二重円線を配し、その中にキリーク（阿弥陀如来）の種子を刻み、その向かって右にサ（観音）、左にサク（勢至）の種子を並べて置く。その下方に

月山行人結衆等

貞治七季（年）戊申三月日

已上百余人敬白

の銘文が刻まれている。この場所には昔、一明院という修験寺院があったとされ、五輪塔や小石仏が立つ。**行人が結集し月山登拝した最古の例として貴重である。**

図－ 2

3. 高知県幡多郡大月町の「月山神社」



（祭神／月形の石）

図－ 3 は、2017（平成 29）年、68 歳の時に敢行した 2 回目四国徒歩へんろにおいて、22 日目の 4 月 25 日（火）に立ち寄った時の写真である。元は「守月山月光院南照寺」と呼ばれた神仏混合の霊場であった寺、今は四国八十八ヵ所番外札所として参拝客が絶えない。月山の名は、神社のご神体が三日月形の石であり、また月弓大神を祭祀したことによって名付けられたことが起源とされている。海の護り神として崇敬されている。

（end）

図－ 3